

中富小だより

所沢市立中富小学校 学校通信第3号
令和2年6月1日発行

学校教育目標

「なかよく かしこく たくましく」

三つの約束

- あいさつ
- 整理整頓
- 時間を守る

1年生	41名	4年生	42名
2年生	42名	5年生	57名
3年生	51名	6年生	59名
児童数	5組 6名		
全校児童数	298名		

入学式に始業式、いよいよ学校再開 校長 仲田 智宏

先週5月25日に緊急事態宣言が解除になりました。外出自粛にご協力をいただいた、子どもたちや保護者の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。政府や知事、市長も話していますが、皆さまの努力のおかげです。

本日の学校再開に向け、校内で教職員が一致団結して準備してきたことをお伝えします。方針の大きな柱は、「保健と安全の管理」および「偏見や差別に関する指導」でした。健康と安全の管理については、言うまでもなく感染症防止についてのマニュアルを作成することと、全教職員が共通理解・共通行動できることです。養護教諭が中心となって作成したマニュアルで打ち合わせし、子ども達への伝え方を相談しました。流しやトイレの準備もしました。子ども達にわかりやすいように、ポスターも完成しました。いろいろな他校の作品を参考にしたとのことですが、中富小にぴったりのポスターができました。

「中富小のみんなができること」

「かせきおいてけで守ろう！みんなの大切なのち」

「さけよう！3つの密」

この3つのポスターを、ご来校の際にぜひご覧ください。

偏見や差別に関する指導も、話し合いながら準備しました。「感染してしまった人やその家族の方、医療に従事する方やみんなの命や生活を守る方々への偏見や差別は許されません。」という内容です。所沢市教育委員会からのお願いというリーフレットを用いて、どのように子ども達に伝えるか、教職員は研修しておりました。

3つの密を避ける安全管理も、偏見や差別に関する指導も、教えられたことを守るのは勿論のこと、自分だったらどうするかを子ども達一人一人が考えるようになって欲しいと

いう願いが根底にあります。新しい生活様式を実践していくのは、私たち一人一人であり、それは子どもも同じです。教育の果たす役割を、教職員と再確認した準備期間でした。

先週の登校日は、今日からの生活の基本的事項を確認しました。分散登校のため少人数であり、教員も子どもと目を合わせながら話せていました。教室訪問でその様子を見ながら、子ども達の提出物を手に取ってみると、生活表のすばらしさに気づきました。ご家庭では、いろいろなお手伝いに取り組みせていただけたのですね。お風呂洗い、洗濯物干し、玄関掃除、妹の面倒、花の水やり等々。親の肩をたたくというのもありました。さあっと見ただけでも、20種類以上ありましたよ。家庭生活の中で、しっかりと「たくましく生きる力」を育てていることに感動いたしました。

さあ、学校再開でございます。未だ先のことはわかりませんが、精一杯、子ども達を指導して参ります。

自粛生活で新たな発見

新聞、広告、広報誌、タウン誌、お知らせなど、外出自粛で家に居るものですから、何でも読むようになりました。市報「ところざわ」も、当番医の覧に目を通す程度でしたが、読んでみると、意外に楽しいです。テレビやパソコンばかりで、いかに自分が活字離れになっているかも痛感しました。

感染症防止のための自粛生活、辛い毎日でしたが、ちょっとした発見があると、嬉しさや楽しさが増してきます。記事というものはそれを取材し、作っている人がいるということです。記者が見たものが自分にはどう見え、どんな味や匂いがするのか、実際にふれてみるのが今から楽しみです。